

⑧

2017年デジタル版

gyahunkoubou.com

『ジョジョ (第4部)』 の名言 20 選

もしも『脱社畜の働き方』を
部下が読んできたら？

あなたも私も
『下流老人』になる

『シドニアの騎士』の宇宙船は
いまの日本そのものだった

『シン・ゴジラ』は
九条信者も非信者も両方オーケー

『24-TWENTY FOUR-』で
『社会』の勉強をするのだ

『回復力 失敗からの復活』で立ちなおるかを学ぶ
『ブア充』で生きるには解決すべき課題がある
『はじめての憲法教室』で“知ったか”をただそう

『フラァーハウス』を観る人に伝えたい 10 のこと

特集

生き残れ！

ぎゃく
ぎゃく

ぎゃふん⑧試し読み版

まね

会社に人生を
支配されない
34の思考法

脱社畜の 働き方

著者 英太郎

『暗い美人より
明るいブス』

なら
問題は
ねーか
ねーか
やあ

まね工房



はじめに

人生の幸福は〈モノづくり〉にあり……！

黒澤明監督の『生きる』という映画があります。ガンを宣告された公務員の男が、残されたわずかな人生をどう「生きる」かを描いた作品です。酒、女、ギャンブルと、悦楽の限りを尽くしますが、満足するには至らない。ほんとうに「生きる」実感を得られたのは、公務員の仕事として最期に手がけた公園の造設でした。

人生でもっとも幸せを感じられることは何か？ 人によって千差万別でしょうが、本誌は〈モノづくり〉だと考えます。『生きる』を観てそのことを痛感しました。

じつはこの『ぎゃふん』の制作も〈モノづくり〉だと思って取りこんでいます。ただ、ブログの記事を集めて本にするだけでは、あまり〈モノづくり〉という感じがしません。ではどうすれば？ 言葉で言いあらわすのは難しいのですが、ひとつの答えとしてカタチにしたのが、この『ぎゃふん⑧』であると言えます。

本誌のどこで〈モノづくり〉の喜びが表現されているか。それを探しながら読んでいただくのも一興かもしれませんよ。

2017年1月1日

米田政行（ぎゃふん工房）

もくじ

はじめに 人生の幸福は〈モノづくり〉にあり……！	4
特集 生き残れ！	6
仕事で成果が上がる！ 『ジョジョ（第4部）』の名言20選	8
これから働きかたが変わる！ もしも『脱社畜の働き方』を部下が読んできたら？	30
どん底に堕ちても生還できる！ あなたも私も『下流老人』になる	34
人生で失敗しても挽回できる！ 『回復力 失敗からの復活』で立ちなおるかたを学ぶ	38
貧乏でも幸せになれる！ 『プア充』で生きるには解決すべき課題がある	40
なぜ生きることは苦しいのかわかる！ 『シドニアの騎士』の宇宙船はいまの日本そのものだった	42
自衛隊のあるべき姿が見える！ 『シン・ゴジラ』は九条信者も非信者も両方オーケー	46
国家の本質が理解できる！ 『24-TWENTY FOUR-』で〈社会〉の勉強をするのだ	50
日本国憲法がよくわかる！ 『はじめての憲法教室』で“知ったか”をただそう	54
『フルハウス』の続編『フラーハウス』を観る人に伝えたい10のこと	56
『ぎゃふん』制作メモ	62

特集

生き残れ!

昔の偉い人は言った。
諸行無常。万物は流転する。
ゆく河の流れは絶えずして、
しかももとの水にあらず——。

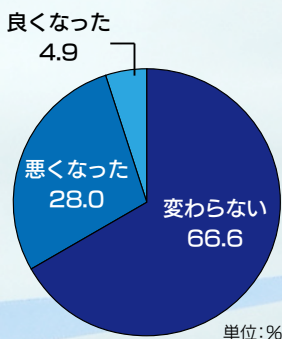
たしかに世の中は
つねに変わっている。
誰しもそれは実感しているはず。
ただ、悪い方向に変化しているのか?
それとも良いほう?
それは人によるのではないか。
まさに自分次第。

「世の中はだんだん良くなっている。
自分の人生、捨てたもんじゃない」
そう思うための秘訣はないか?
この激動の時代で
生き残るための方法は?
それを探し出すために
ちょっとだけ立ちどまって
考えてみよう。

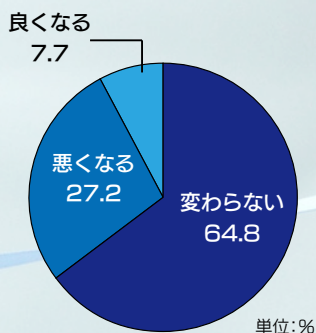
いまの世の中、みんなはどう思っているか？

日本銀行が2016年夏、全国の満20歳以上の男女4000人を対象にアンケートを行なった。結果は以下のとおり。「世の中は変わらない」という意見が多いのは“平和ボケ”かもしれない。注目すべきは「良くなる」という声の少なさ。みなさんは、これらの問いに何と答えるだろうか？

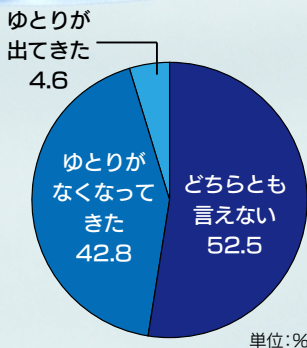
Q1 1年前と比べて、いまの景気は
どう変わりましたか？



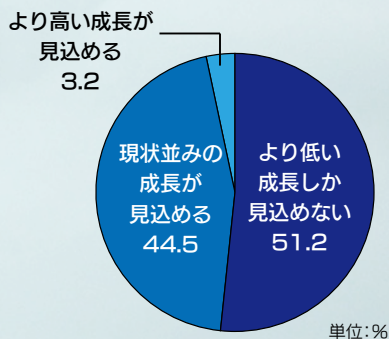
Q2 1年後の景気は、いまと比べて
どうなると思いますか？



Q3 1年前と比べて、あなたの
暮らし向きがどう変わった
と感じますか？



Q4 長い目で見たとき、
日本経済の成長力について、
どう思いますか？



仕事で成果が上がる！

『ジョジョ (第4部)』 の名言 20 選

仕事で成果を上げられないヤツは切りすてられる。
そんな時代を生きぬく方法をマンガの
登場人物から学ぼう。



呪われた魂になるぜエッ!

恨みは人ではなく状況にぶつける

人に対して恨み^{うら}、怒り、妬み^{ねた}といった負の感情を抱いても、なんのプラスにもならない。お金が得られるわけでも、幸せな気分になるわけでもない。むしろ、どこかでヘマをしたり、嫌な気持ちになったりする。自分で自分に呪いをかけるようなものだ。そうならないよう「呪われた魂になるぜエッ!」と、自分に注意を促したい。

①

負の感情は人に向けず、目の前にある状況や自分の置かれた環境にぶつける。自力ではどうすることもできないケースもあるが、働きかけ次第で変えられる場合もあるはずだ。

たとえば、人手が足りず忙しい。プライベートの時間がどんどん削られていく。だが、スキルアップを図り、仕事のやりかたを工夫すれば、単位時間あたりの生産量はやがて上がっていくはず。そうすれば、いまより少しは気持ちが楽になるのではないか。

状況にマイナスの感情をぶつけてプラスに転化する。そう頭を切りかえてみよう。👉

追いつめられた敵が東方仗助にトドメを刺されそうになり、逆ギレ気味に放ったセリフ。



特集 生き残れ!

場違いでも地道に取りくむ

敵はこのあと「一枚のCDを聞き終わったらキチッとケースにしまってから次のCDを聞くだろ？」などと尋ねる。ようは神経質な性格。だから、〈矢〉なんて放っておいてもいいのに、戦いの最中にもかかわらず康一から〈矢〉を引きぬこうとしたのだ。



この敵のふるまいはあきらかに場違い。間が抜けている。迂闊に近づけば反撃される可能性があるのだから。だが、そこから学べることもある。

敵が広瀬康一に向かって〈矢〉を放つ。そして、刺さった矢をわざわざ回収しようとする。近づきながら言う。

それは、他人から見れば些細だったり、一見その場にふさわしくなかったりしても、自分が必要だと信じるなら、地道に着実に取りくむべきということだ。

たとえば、Excelでマクロを組んで処理すれば？ そうアドバイスされる。たしかに作業時間は短くなるかもしれない。だが、マクロの組みかたで下手を打つこともある。急がば回れ。紙とペンを使ったほうが質を担保できる。そんなケースもあるはずだ。

その仕事については誰よりも自分がかわしい。どうすべきかを適切に判断できるのは自分である——。そんな状況なら、「キチョーメンな性格でね」などとつぶやき、まわりの茶々に耳を貸さないようにしたい。👉

③



自分の〈切り札〉を見極める

康一はスタンド使い（*1）だが、それを由花子は知らない。持ち前の洞察力、あるいは“女の勘”で、康一の秘密を見抜いたわけだ。

由花子の言う「切り札」とは、康一のスタンドの能力を指している。マンガを読んでいる者は誰もがそう思っていた。いや、この時点では作者もそう考えていたはずだ。

ところが、のちのエピソードを見ると、必ずしもそうではないことがわかる。じつは康一は見かけによらず逆境に負けない不屈の精神の持ち主であった。さらに、他人の好意に誠実に応える包容力も持ちあわせていた。由花子は、そんな康一の本質まで見抜いていたのだ。

われわれも康一と同じように自分なりの〈切り札〉を持っておきたい。ふだんは他人からわからない技能。ここぞというときに発揮される特技。そういったものだ。

たとえば、書類のほんの小さなミスも見逃さない。どんな嫌いな相手でもイヤな顔ひとつせずコミュニケーションがとれる。会議で煮詰まったとき画期的なアイデアを思いつく――。

誰もがそんな〈切り札〉を内に秘めている。「切り札を持ってるぞ」と胸を張れるものはないか？ 自分を見つめなおそう。 

山岸由花子は康一に好意を抱く。あまりに強い思いから、康一を人里離れた家に監禁してしまう。康一は激しくうろたえるが、由花子は康一の内面にあるものを見透かしていた。

「切り札を持ってるぞ」って感じなのよねえ

*1:「スタンド」とは特殊な能力を持った自分の分身のこと

おれは反省すると強いぜ

いきがっていた敵が慢心から大きなダメージを食らう。態勢を立てなおしながら口にしたセリフ。



同じ過ちを犯す可能性を小さくする

手痛い失敗や痛恨のミスをするのは誰にもある。その結果、精神的に落ちこんでしまうこともあろう。しかし、“デキる”ビジネスパーソンとそうでない人を分けるのは、ヘマをやったあとのふるまいだ。

敵のこのセリフは、一見すると相手に対する威嚇だ。いい気になるなと釘を刺している。一方で、「反省すると強いはずだ」という自己暗示にもなっているのではないか。

実際、自分のミスに焦点を当てればそれは汚点となるが、前向きに考えれば状況を改善するチャンスでもある。失敗の原因を冷静に分析すれば、同じ過ちを犯す可能性を小さくできる。それは大きなアドバンテージだ。災いを転じて福となす、というわけだ。

たとえば、はっきりと担当者を決めていなかったために進捗管理がおろそかになってしまった。それでプロジェクトの進行に支障が出た。ならば、次から担当者をきちんと決めればいい。

4

ビジネスシーンにおける反省とは、自分を責めることではない。「おれは反省すると強いぜ」と心の中で唱えながら、未来の行動を軌道修正することなのだ。📖

行動を変えれば運命は書きかわる

運命など誰にもわからない。当たり前だ。わざわざ教えられるまでもない。だが、『ジョジョ』の世界では違う。露伴は他人の運命の内容を書きかえることができるのだ。

⑤

もちろん、スタンド使いでないわれわれは、そんなマネはできない、他人に対しては。そう。自分の“本”なら書きかえられる。すなわち自分の行動を変えるということだ。

「運命は読めない」。たしかにそうだ。でも想像することはできる。それも複数の成りゆきをシミュレーションできる。ならば備えればいい。最悪の事態を想定して。穴があるなら、あらかじめ塞いでおけばいい。

岸辺露伴は、他人の記憶や秘めたる想いを、まるで本を読むように知ることができる。しかし、自分の運命だけは予測できないのだった。

たとえば、締め切りから逆算して作業のスケジュールをきっちり立てる。不測の事態が起こるのも織りこんで予定を組んでいく。

そんなふうに心がけていれば、
運命は変えられるのだ。 



つづきは正式版でお楽しみください。



© 2001 - 2017 GYAHUN Koubou

2017年1月1日 デジタル版 発行
2022年3月3日 デジタルリマスター版 発行

出版者 米田政行

発行所 Gyahun工房
mail@gyahunkoubou.biz